



平成29年度活動報告書

震災と共に

—今を伝える—



平成29年度 活動報告

震災と共に

—今を伝える—

I	はじめに	2
II	平成29年度活動年表	4
III	今年度の活動	5
	- 富岡小学校・中学校との交流	
	- 東北ボランティアツアー	
	- 通年の活動	
	- 大学祭企画	
	- ちばシティサバイバルキャンプ	
	- その他の主な活動	
IV	『ふれあいの環』の活動	25
	- ふれあいの環とは	
	- 平成29年度の主な活動	
V	活動を振り返って	32
VI	あとがき	34
VII	ふれあいの環通信	36

千葉大学総合学生支援センター

はじめに

新たな『ソーシャル・ラーニング』の時代へ

国際未来教育基幹キャビネット
学生支援センター

センター長 渡邊 誠

千葉大学では、これまで『ソーシャル・ラーニング』(社会で学ぶ・社会から学ぶ)について色々なことを検討してきました。そして、平成30年度より、授業の一環として単位化した『ソーシャル・ラーニングⅠ』を開始します。

これには、教育学部の下永田修二先生をはじめとして、多くの先生方が携わってきたボランティアの活動、学生個々のキャリア形成、グローバル・ボランティアなどの成果、さらにはこれから始まるオリンピックやパラリンピックへの協力に到るまで様々なことが含まれています。学生のみなさんが、これまで取り組んできたボランティア活動や他のさまざまな成果の一つであります。

もちろんお分かりの通り、『ソーシャル・ラーニングⅠ』とありますので『ソーシャル・ラーニングⅡ』、場合によっては『…Ⅲ』、『…Ⅳ』も検討されています。

是非ともみなさんの参加をお待ちしています。

さて、『平成29年度活動報告書 震災と共に～今を伝える～』では、東日本大震災から7年の月日がたち、あらためてその振り返りをさせていただいております。千葉大学は、富岡小学校・中学校といろいろなことをしてきたのだなということがお分かりいただけるとと思います。

運動会の支援、冬の体験活動、豆まき集会など、いわば年中行事になっているものですが、その都度、新鮮な気持ちで活動されていることがよくわかります。

今後も是非、継続していただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

参加学生のコメントには、「運動会が貴重なものだと思うと同時に残していきたいと感じる」「小さな進歩を見逃さずに大事にしていく気持ちを持つことが大切」などがあり、普段では得ることができない感動があったと思います。是非、この感動の心を忘れずに。そして、『ソーシャル・ラーニング』とはなにか。さらには、“ソーシャル・ラーニングを楽しむ心”の輪を広げていただけるとありがたいと思います。これからもみなさんの活動を応援しております。

「ふれあいの環」の学生と共に

国際未来教育基幹キャビネット

学生支援センター

副センター長 下永田 修二

年度末を迎え、この1年間、「ふれあいの環」の活動を支え、ご協力いただいた皆様に、心よりお礼申し上げます。

「ふれあいの環」は学生が主体となって、学生生活をつくり、支えていく活動になりますが、5つの団体が今年もそれぞれ、教職員と一緒に活動について考えながら、実施していくことができました。

私自身も1年間、なるべく学生の活動に寄り添い、一緒に考え、活動できるように取り組んでまいりました。私も参加した“富岡小中学校の運動会”、“東北ボランティアツアー”、“ちばシティサバイバルキャンプ”、“富岡小学校豆まき集会”では、「ふれあいの環」の学生と教職員が協力し、学生が積極的に活動できる取り組みができたと思っております。そして、今年は“カタリベカフェ”の活動に参加し、学生の思いを聞くこともでき、ノートテイク会の学生と話をする機会もありました。このような機会から、学生達は自分の専門だけでなく、大学の学生生活全般について考え、活動していきたいと思っていることを知ることができました。

このような活動や気持ちは、やはり、新入生にも魅力的にみえるようで、今年は、「ふれあいの環」に多くの新入生を迎えることもできました。また、各ボランティア活動には、ポータルサイトの情報をみて、多くの学生が参加してくれました。その学生達は複数の活動に繰り返し参加してくれており、学生が活動を通して、通常の授業では学べない貴重な知見を得ていることと思います。

「ふれあいの環」の学生をはじめ、ボランティアに参加してくれた学生の皆さんと話をする、多くの学生は、サークル活動にも参加しており、所属する学部、サークル活動、そして、「ふれあいの環」の活動とつながりの幅を広げ、多くのことを学ぶ姿勢がみられます。この取り組みは、必ず、将来につながる活動になると思っております。今年で卒業、修了していく「ふれあいの環」の学生もいますが、ぜひ、これまでの活動を活かして、それぞれの進み道で活躍していただきたいと思っております。

さて、次年度に向けて、これまでの活動に加えて、障害学生支援の準備も進んでおり、新たな取り組みも増えていきます。これも、これまでの「ふれあいの環」の活動同様、学生が学生や教職員とともに取り組んでいく活動になるように協力して取り組んでいきたいと思っております。

ぜひ、この報告書をご覧いただき、今後、さらに多くの方々が一緒に活動していただけることをお待ちしております。

平成29年度活動年表

月	活動内容	内容
平成29年		
I 4月	3,4日	【ふれあいの環】 新入生ガイダンスで活動紹介
	4,6,7日	【ピア】 新入生サポート会を開催
	7,10日	【ふれあいの環】 5団体合同説明会を開催
	14日	【CISG】 ウェルカムパーティーを開催
II 5月	17日	【ピア】 第1回カタリベカフェを開催
	26,27日	【ふれあいの環】 富岡小学校運動会を支援
II 6月	15日	【CISG】 第51回ユニバーサルフェスティバルを開催
	21日	【ピア】 第2回カタリベカフェを開催
III 7月	3~7日	【ふれあいの環】 セタウィークを開催
	8日	【V 学生スタッフ】 ボランティア相談会を開催
	13日	【ピア】 第3回カタリベカフェを開催
	14日	【ふれあいの環】 夏季キャンパスクリーン活動に参加
	21日	【ふれあいの環】 暑中見舞いプロジェクトを実施
III 8月	25,26日	【ふれあいの環】 研修合宿を実施
IV 9月	2日	【ふれあいの環】 田中みこし祭りに参加
	24日	【V 学生スタッフ】 ちばシティサバイバルキャンプ開催
	29,30日	【ふれあいの環】 第8回東北ボランティアツアーを開催
V 10月	9日	【ふれあいの環】 千葉大学学長杯駅伝に参加
	5日	【CISG】 ウェルカムパーティーを開催
	28,29日	【NT 会】 PEPnet シンポジウムに参加
V 11月	4,6日	【ふれあいの環】 千葉大学祭に出展
	28,30日	【ピア】 第4回カタリベカフェを開催
VI 12月	2日	【V 学生スタッフ】 縁 joy 東北に参加
	13日	【ピア】 第5回カタリベカフェを開催
	14日	【CISG】 第52回ユニバーサルフェスティバル開催
	19,21日	【ピア】 第5回カタリベカフェを開催
平成30年		
VII 1月	10日	【ふれあいの環】 年賀状プロジェクトを実施
	15,18日	【ピア】 第6回カタリベカフェを開催
VII 2月	2日	【ふれあいの環】 富岡小学校豆まき集会を支援
VII 3月	16日	【ふれあいの環】 「3.11を想う」を開催

今年度の活動

富岡小学校・中学校との交流

富岡町について

富岡町は福島県の太平洋側、東京電力福島第一原子力発電所と第二原子力発電所の間に位置する小さな町でした。震災および原発事故前には約16,000人が暮らしていました。

原発事故により富岡町全域が警戒区域に指定され、町民は避難を余儀なくされてしまいました。震災から6年が経過した、2017年4月に一部地域を除いて避難指示が解除されましたが、インフラ整備など町の再建は道半ばです。

富岡町には、2017年12月末現在約400人の方が暮らしています。



画像：富岡インサイド
<http://www.tomioka.jpn.org>



三春校外観



三春校の校内

富岡小中学校について

富岡第一・第二小学校、および第一・第二中学校は、富岡町にあった町立学校です。合計1,470名の児童が通っていましたが、原発事故の影響で全国各地に散らばってしまいました。

その後富岡町は、三春町の曙ブレーキの工場跡地に「富岡小中学校・三春校」として仮校舎を設置します。

避難先が福島県三春町に近い生徒を集め、2011年9月1日に富岡小中学校・三春校を再開しました。小中学校合計で約70名程度が三春校に集まり学び始めました。

千葉大学と富岡小学校

富岡小中学校と千葉大学の関わりは、富岡第一・第二小学校の校長先生が千葉大学教育学部卒業であり、千葉大学のOBに支援(遊具の寄付など)を呼びかけたのがきっかけでした。

その後、避難生活の中で人との関わりの少ない子ども達の心のケア・将来への希望やコミュニケーション能力の育成を目的とし、継続的・多面的な交流活動をしていくことが決定しました。



2017年富岡幼・小・中合同運動会

○千葉大学と富岡小学校・中学校との交流の軌跡

【年表】

2011年	3月11日	東日本大震災	
2012年	1月31日	当時の富岡第一小学校校長先生を招いた講演会	
	2月2日	小学校豆まき集会の活動支援	
	5月18日、19日	運動会の活動支援	
	7月11日	富岡中学校「国際理解講座」の活動支援	
2013年	8月22日～24日	富岡町主催「小学校・中学校の再会のつどい」の活動支援	
	12月27日、28日	福島県主催「富岡町立小学生の再会のつどい」の活動支援	
	2013年	2月1日	小学校豆まき集会の活動支援
	5月17日、18日	運動会の活動支援	
2014年	8月7日	富岡町主催「小学校・中学校の再会のつどい」の活動支援	
	1月31日	小学校豆まき集会の活動支援	
	2月22日	小学校「児童と過ごす東京ディズニーランド」の活動支援	
	4月18日	小学校「千葉大学柏の葉キャンパス植物工場見学」の活動支援	
2015年	5月23日、24日	運動会の活動支援	
	1月30日	小学校豆まき集会の活動支援	
	5月22日、23日	運動会の活動支援	
2016年	1月29日	小学校豆まき集会の活動支援	
	5月27日、28日	運動会の活動支援	
2017年	2月3日	小学校豆まき集会の活動支援	
	5月26日、27日	運動会の活動支援	
2018年	2月2日	小学校豆まき集会の活動支援	

今年度の富岡小中学校支援

富岡幼・小・中 合同運動会支援

事前説明会

平成29年5月12日 運動会概要説明会
平成29年5月17日 運動会日程等打ち合わせ
平成29年5月22日 片岡先生によるお話し会
(富岡町について)

運動会

平成29年5月26日・27日
参加者：学生19名、教職員9名



事前に富岡町を知るための説明会を実施しています。富岡町出身の片岡先生にお話をさせていただきました。



子どもたちの競技の間は、声を出したり、一緒に走ったりして応援をします。



小・中学校のよさこいを一緒に踊りました。事前に練習を行い、本番に臨んでいます。



運動会前日は三春校に伺い、校舎見学や児童との交流を行いました。交流を続けることで、絆を深めることができます。



子どもたちと一緒に競技を行うこともあります。学生も楽しみつつ参加していました。

富岡第一・第二小学校 冬の体験活動および豆まき集会支援

事前説明会：平成30年1月24日

体験活動：平成30年2月2日

参加者：学生13名、教職員5名

場所：ファミリースノーパーク ばんだい×2

冬には、冬の体験学習としてスキー実習と豆まき集会で交流をしています。



スキーを滑った午前中が終わると、お待ちかねの昼食です。昼食も大切な交流の時間です。普段の学校の話、家での話などたくさんお話しして一気に仲良くなりました。



まずはスキー実習です。学生は子どもたち1人1人に付いて一緒に学びます。



豆まき集会では、子どもたちはそれぞれの心にある鬼(例えば「ねぼう鬼」など)を倒すため、鬼に扮した学生に落花生を投げます。毎年行われる大切な行事です。

参加学生の声

富岡町という地域では、人々が集まって、テレビ局が来て…というほどの一大行事になっていて、運動会が貴重なものなんだと思うと同時に、残していきたいと感じました。自分たちが行くことで学校の力となり、存続の力となれるのなら、積極的にこれからも参加していきたいです。(法政経学部3年)

子どもは日々成長する中で、変化し、前に進んでいくのだと強く実感しました。そして、これは復興とも通じることではないかと思います。きっとここまでが限界だろう、などとみんなが思っていたら、変わることもあまり変化しないで時が過ぎるかもしれない。そうではなく、子どもの成長を、そして復興を支えていく人は、支えたい、進んでほしいと願う強い気持ちと、そんなに小さな進歩を見逃さず大事にしていく気持ちを持つことが大切ではないかと思いました。(教育学部4年)

【事前研修資料】

「3.11と富岡町」

日時：平成29年5月22日

場所：ふれあいの環

講演：片岡洋子先生(教育学部)

3.11と富岡町

片岡洋子(教育学部)

全長2キロの桜並木と さくらまつり



常磐線 夜の森駅のツツジ

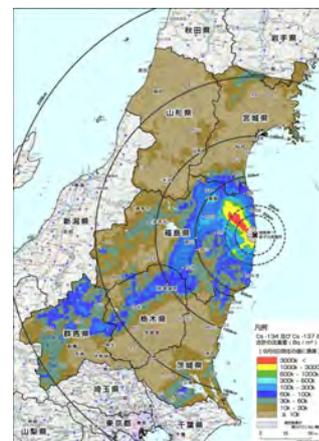


原発事故と全町民避難

- 2011年3月11日 東日本大震災と大津波
- 福島第一原発 全電源喪失で冷却不能に
- 3月12日早朝
- 富岡町の全町民に避難勧告
- しかし原発が危険な状況になったから避難するとは知らずに、大渋滞の中、大型バスやマイカーで川内村などに避難(取るものもとりあえず。子どもたちはこれ以後、一度も町に帰っていない。15歳になると一時帰宅可能。)

福島第一原発事故の進行

- 3月12日15時36分 1号機建屋が水素爆発
- 3月14日11時01分 3号機建屋が水素爆発
- 3月15日 6時12分 4号機建屋が水素爆発
- 3月15日未明 2号機格納容器の圧力上がる最悪の爆発の恐れ→爆発はしなかったが最大の放射性物質が放出され、北西の風に乗って、福島県中通りから関東まで放射性物質が降下。
- 富岡町民が避難した川内村も、全村避難に



全国に避難した町民

- 富岡町役場は、川内村役場とともに、郡山ビッグパレットに移設。町民の避難所ともなる。
- より、遠くへ、または親戚や知人を頼って全国に避難
- 4月 子どもたちは避難先の学校へ(区域外就学)

富岡町

平成23年3月11日現在の住民登録人口
15,960人



平成29年1月1日現在の避難者数
14,999人
(内訳… 県内10,750人、県外4,249人)

富岡小・中学校 三春仮設校舎開校

- 2011年9月 富岡幼稚園、富岡第一、第二小学校、第一、第二中学校が、工場跡につくられた仮設校舎で開校

	2010年5月1日(震災前)		2012年		2013年
富岡一小	416	→	17	→	14
富岡二小	521	→	15	→	17
富岡一中	259	→	22	→	20
富岡二中	291	→	17	→	11

ふるさと創造学と放射線教育

- なぜ富岡町から70キロも離れた三春に富岡の学校があるのか
- 2011年3月11日に何が起こったのか
- 原発事故によって町はどうなったのか。
- 放射線とは何か。
- これからふるさと富岡町はどうなっていくのか。
- 私たちはどのように生きていくのか。

配付資料参照

町への帰還が始まる

- 2017年4月1日 帰還困難区域(夜の森地区)を除いた区域の避難指示解除

2016年8月の町民調査 ()内は2015年8月調査

▽戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)	16.0%(13.9%)
▽まだ判断がつかない	25.4%(29.4%)
▽戻らないと決めている	57.6%(50.8%)



第8回東北ボランティアツアー



9月29日・30日で第8回となる千葉大学東北ボランティアツアーを開催。今回は2017年4月に避難指示が解除された福島県富岡町で活動を行いました。

実施概要 参加者：学生34名、教職員5名
場 所：福島県双葉郡富岡町
日 程：事前研修 9月25日
 ツアー 9月29日
 ~30日
 事後研修 10月11日

①事前研修

ボランティアツアーを安全かつ有意義なものとするを目的として、ツアー参加者に対して事前研修を実施しました。

健康管理や、富岡町の被災状況などについて理解を深めます。

また一緒に作業をする班員や活動を補助する教職員との顔合わせも行いました。



②本の整理・清掃

ツアー初日である29日は、現在再開に向けて作業を進めている富岡町図書館にて本の整理・清掃を行いました。具体的には、児童書を捨てるものと残すものに分け、雑巾や歯ブラシで清掃する作業です。

本の清掃ボランティアの後は富岡町社会教育委員の荒木さんからお話を聞きしました。

富岡町の実情や被災者の心情など、ニュースや新聞では聞くことのできない話を語って頂き、印象に残った学生も多くいました。



③1日目の振り返り

初日の夜には、見学の振り返り会を行いました。作業を通して感じたこと、考えたことなどを共有し、学びを深めました。



⑤富岡第一小学校の校長先生のご厚意で、現在も震災および原発事故当時のままで残されている校舎内を見せていただきました。

現在も当時の児童の荷物や黒板の板書が残されています。



⑥事後研修

ボランティアツアー終了後、別日にて事後研修を行いました。参加者は日常生活に戻った上で改めてツアーでの体験を振り返り、ボランティアや被災地についての考えを深めました。

2017年4月に避難指示解除がなされた福島県富岡町。今年はインフラ整備など復旧の一年となりました。来年度からはインフラ整備とともに町づくりをどのように行っていくのかも大きな問題となります。

未だどのような町になっていくか分からない部分が多いですが、現状を知り、関心を持ち続けることが、この地域を支える大きな力となりうることをこのボランティアツアーで感じることができました。

④「ふたばワールド」の参加

30日は、富岡町立第一小中学校を会場にして行われたイベント「ふたばワールド」にてボランティアを行いました。

富岡町のブースをお借りして、自作した防災カルタとボランティア活動紹介を実施しました。また、グラウンドではバドミントン・サッカー体験のブースのお手伝いも行いました。



ツアー参加者の声

I
富岡の人は、震災によって身体的に健康を害してしまったと思いますが、心理的な健康も害してしまったのがもっと大きいのではないかとお話から感じました。

(医学研究院 修士1年)

放射線に対する差別など、東京にいて周りに福島からの避難者がいなかったのも、あまり実感できなかったが、直接話を聞き、実際に起こっていることを感じた。

(文学部1年)

II
放射能問題が人々の関係性にも軋轢を生んでしまっていることを悲しく感じた。福島県内の人々も放射能について過敏になって、必要以上に不安を感じてしまっていると思った。こういった問題を少しずつでも解決していく必要があると考える。(文学部3年)

福島のみや野菜について、嫌だとか悲しいとかではなく、自分も県外の人間だったら食べないかもしれない、子どもにも食べさせないと思う、だから気持ちは分かるとおっしゃっていたのが、何とも言えず切なくどうしようもならない状況だとおもった。

(教育学部3年)

III
図書館や学校再開の準備を進めているが、子どもたちが戻ってくるかどうか分からないという事実で悲しくなった。「作業員の街」という言葉が印象に残った。富岡に新しい雇用が生まれれば人は戻ってくるかもしれないと思ったが、難しいのかなとも思う。

(融合理工学府 修士1年)

6年前に各地方に分散して、そこで生活の基盤が作られなかなかに町に戻ってきづらいうという実際の現状を実感値として理解できた。深いところの実際の感覚について話してくださいだったので、ここでしか聞けない話でとても興味深かった。

(法政経学部2年)

IV
福島について理解を深めて、福島の人が過ごしやすい社会にできたらいいと思った。(自分が福島の人だといいたくない人がいると聞いた。)町民や生徒がかなり少ない中でも復興に向けて頑張っている人の生の声を聞いて良かった。「生徒が1人でもいれば学校を再開させる」という言葉が印象的だった。

(看護学部1年)

V
これからの福島について考えなくてはならない。周りの人の福島への考え方を考えていかなくてはならない。

(法政経学部2年)

VI
避難状況の実際や戻ってくる人の心境、現地の人々の放射線への考え方などを直接聞くことができとても有意義な時間だった。自分は食べられるけど子どもには食べさせたくなかったとおっしゃっているのを聞いたのが印象に残った。

(法政経学部2年)

VII
テレビ、新聞などで福島の食材は安全だ、あるいは福島の街はもう放射線の心配はないなどと叫ばれているが、実際の福島県民の考えとは大きくずれていることが感じられた。福島県民が考える本当の意味の「安心・安全」とは何か考えさせられる内容であった。

(法政経学部2年)

通年の活動

ボランティア掲示板



総合学生支援センター2階「ふれあいの環」にボランティア掲示板を設置しています。

掲示板では大学に集められたボランティア情報や、ボランティア参加の手順等を張り出し、学生のボランティア参加を後押ししています。



掲示板を見に来た学生に対しては、学生スタッフがボランティアについての相談に応じます。

また、掲示板を見に来ることが難しい学生に対しては、メールマガジンの配信も行っています。

ボランティア相談会



ボランティアに関心のある学生に対し、ボランティア経験を持つ学生スタッフが相談を受け付けます。ボランティア参加意欲を持つ学生への情報提供や、不安を解消することなどを主な目的として開催しています。



ふれあいの環

7/3(月)

ボランティア相談会

☆国際ボランティア体験談
12:10~12:40(昼休み)

ゲスト：新津朝絵さん(教育学部)
3ヶ月の英語留学の後に、9ヶ月
間様々な国でボランティアを経験。

今回は長期で滞在したタンザニア
での経験を中心にお話して頂きます。

☆個別相談会 13:00~16:00

ボランティアを分野別にスタッフが
ご紹介し、参加方法などの相談も受
け付けます♪

出入り自由！
好きな時間にお越しください

場所：ライフセンター2階
ふれあいの環

主催：千葉大学ボランティア活動支援学生スタッフ
お問い合わせはこちら！ chibauniv.vc@gmail.com

相談に乗るだけでなく、ボランティアに関するワークショップや、ボランティア経験者による講演会・座談会なども行っています。

平成29年度千葉大学祭

大学祭企画「復興の足跡」



日時：平成29年11月4日，5日
場所：総合学生支援センター1階

ボランティア活動支援学生スタッフの活動報告をするとともに、東日本大震災の風化防止や防災意識の向上に貢献するため、千葉大学祭に出展しました。

今年度は、「展示」「東北・熊本物産展」「防災カルタ」の3ブースの出展でした。

○展示

今年平成29年4月に一部地域を除いて避難指示の解除がなされた富岡町を中心とした展示を行いました。富岡第一第二小学校・中学校の運動会支援やボランティアツアーの写真をパネル展示しました。

また、ふれあいの環5団体の普段の活動について紹介したパネルについても展示しました。



○東北・熊本物産展

震災の風化防止のため、被災地から発信されている復興促進の商品を取り寄せ、毎年販売しています。

食品では、ままだおる(福島)やずんだもち(宮城)などの東北3県の銘菓をはじめ、熊本のいきなりだんごや黒糖ドーナツ棒をそろえました。

その他にも、ティッシュボックスケースやパンケースなど雑貨も販売しました。



○防災カルタ

大学祭では、家族でいらっしゃる方もたくさんいることから、ちばシティサバイバルキャンプで行った防災カルタを大学祭でも行いました。

自分たちで作ったカルタということもあり、子どもたちも初めてのカルタを楽しんでくれました。遊びを通じて防災について学んでもらうことも私たちが学生としてできることだと思っています。

○来場者の声

東日本大震災の復興について、知らないことが多くありました。また、震災を思い出すきっかけにもなり良かったです。ありがとうございました。(50代・社会人・女性)

手作りの防災カルタが素敵でした。防災の話もおりまぜながら遊んでくれたので、子どもの勉強にもなったと思います。ありがとうございました。(40代・社会人・女性)

両親の実家が熊本地震で被害を受けた際、ボランティアのありがたみを感じました。東北もまだまだ復興には時間がかかると思いますが、頑張ってボランティアを継続して欲しいです。(50代・社会人・女性)

この展示は、時間が過ぎてしまうと忘れてしまいがちなことを、もう一度考え直すいい機会になっていると感じます。物産展も、素敵なものを買って復興に協力できるので、気軽に良いと思いました。(40代・社会人・女性)

大学祭展示パネル

I

II

III

IV

V

VI

VII



■ 基本データ

発震時刻：平成23年3月11日14時46分18.1秒
 震央地名：三陸沖
 震源の深さ：24km
 規模：M9.0
 発生機構：西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層で、太平洋プレートと陸のプレートとの境界において発生。

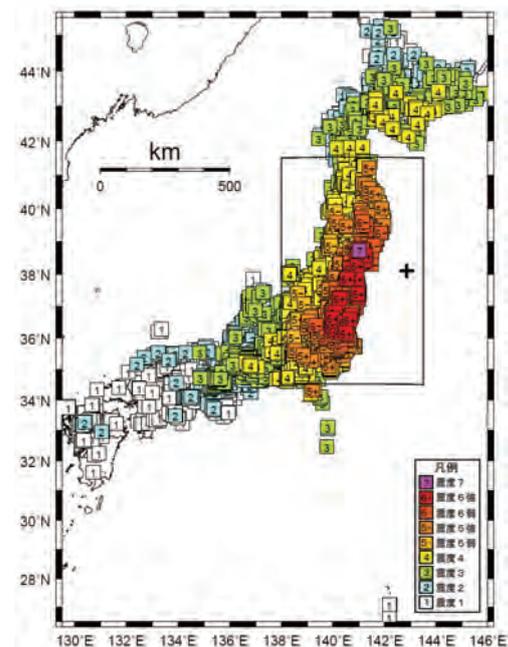
平成28年9月9日（警察庁）

■ 被害データ

	人的被害(人)			建物被害(戸)	
	死者	行方不明者	負傷者	全壊	半壊
岩手県	4673	1121	213	19507	6571
宮城県	9540	1225	4145	83002	155129
福島県	1614	196	182	15224	80793

(気象庁)

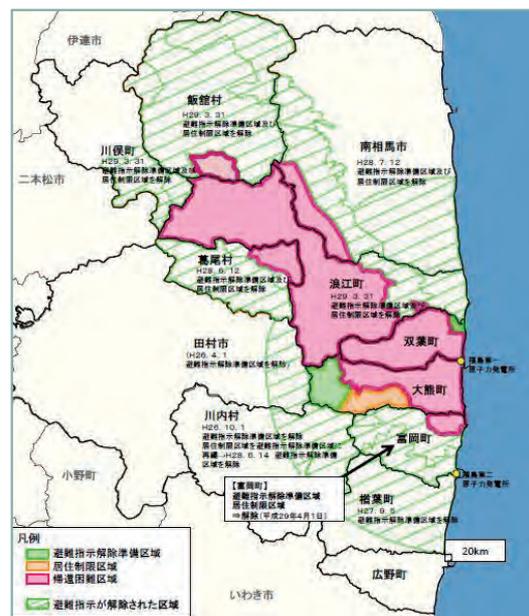
■ 本震震度分布図



(復興庁)

■ 復興の現状(福島県富岡町)

富岡町は福島県の太平洋側、双葉郡の中心にある町で、東京電力福島第一原子力発電所と第二原子力発電所の間にあります。震災により、富岡町全域が「警戒区域」に指定され全町民が避難を余儀なくされましたが、平成29年4月1日より北東部の「帰還困難区域」を除いて避難指示区域から解除されました。



しかし、「帰還困難区域」は、居住人口が町人口の約3割を占める大規模な生活圏であるとともに観光や農業などの地元産業を支えてきた重要な地域です。富岡町全域の本格的な復興はまだまだ道半ばです。

震災前の住民登録人口	平成23年3月11日現在	15,960人
現在の住民登録者数	平成29年5月1日現在	13,441人
現在の町内居住者数	平成29年5月1日現在	128人

(福島復興ステーション-福島県)

復興の足跡

富岡小中学校とのかかわり

■ 富岡町立富岡小・中学校の被災

富岡第一・第二小学校、および第一・第二中学校は1470名の児童が通っていましたが、避難指示により全国各地に散らばってしまいました。

その後富岡町は、福島県田村郡三春町にあるブレーキ工場の跡地に「富岡小中学校・三春校」として仮校舎を設置します。



通学を希望する生徒を集め、2011年9月から仮校舎で学校を再開しました。再開時、生徒数は70名程度でした。

■ 千葉大学と富岡小・中学校の関わり

富岡と千葉大学のつながりは、意外なところから始まりました。当時の富岡第1・第2小学校の校長先生は千葉大学教育学部の卒業生で、千葉大学のOBに支援（遊具の寄付など）を呼びかけたのです。

■ 千葉大学による支援活動

そして2012年以降は、千葉大学学生と富岡小中学校の児童の間で継続的・多面的な交流活動を実施することとなりました。



活動の目的は、避難生活の中で人との関わりの少ない子ども達の、心のケアやコミュニケーション能力の育成です。

代表的な活動として、「運動会支援」が挙げられます。三春校では2012年の5月から運動会を再開していますが、生徒数・教員数共に激減したため、大きなイベントの運営が困難な状況です。



そこで本活動では、千葉大学生が交流や盛り上げを行いつつ、運動会の運営（設営、競技の準備、審判など）を補助します。

復興の足跡

富岡小中学校運動会支援

■ 富岡小中学校運動会支援 1日目

■ 運動会予行練習

早朝に千葉を出発して、お昼前に学校に到着しました。その後、子どもたちとともに運動会の予行練習を行いました。



本番で披露するよさこいや競技の流れを確認しました。予行練習でも子どもたちは、大きな声で元気よく体操や選手宣誓を行っていました。

■ 給食・お昼休み

お昼ご飯は、子ども達と一緒に給食をいただきました。そのあとのお昼休みは子どもたちと教室や体育館で交流をしました。



■ 打ち合わせ

学生は運動会で審判や各競技の準備も行います。子どもたちの下校後には先生方とそれらについて打ち合わせを行いました。



■ 参加した学生から

震災が子どもたちに及ぼした影響を実感できた。しかしそれに負けない子どもたち、教員の皆さんの姿に感動した。

教育学部 4年生

■ 富岡小中学校運動会支援 2日目

■ 運動会本番

運動会当日は雨のため、前半は体育館で行われました。体育館では玉入れ、綱引き、大玉ころがしなどを行いました。

後半は雨が止んだため、グラウンドで行いました。かけっこやリレーなどトラックを使った競技が行われました。



右の写真は、『このぼりダービー』という種目です。これは富岡町での運動会の伝統的な競技であり、この競技を客席から見て地元のみなさんも懐かしんでいました。



子どもたちと千葉大の学生が最も練習していたのが「よさこい」です。2種類のよさこいを7分半にわたって披露しました。

運動会は僅差で白組が勝利し、6年目を迎える運動会支援も無事に幕を閉じました。



復興の足跡

第8回 東北ボランティアツアー

■ ボランティアツアー1日目

千葉大学主催の震災ボランティアツアーは2011年から始まり毎年開催されています。第8回目となる今回は、福島県双葉郡富岡町にて活動を行いました。

■ 図書館の蔵書整理

今年4月、再開された『富岡町文化交流センター』施設内にある、来年4月に再開予定の図書館で活動を行いました。

この図書館では6年以上もの間、手つかずで放置されていた現状がありました。私たちは、その中で児童書の廃棄・整理、本棚の清掃を行いました。



■ 座談会

作業の後は、富岡町教育委員会の方との座談会を行いました。富岡町の現状だけでなく、避難した方々の実情や被災者としての思いなど、普段あまり耳にすることのできないお話を聞くことができました。

■ ツアー後 感想

- ・人手が足りない中で、図書館にある膨大な数の書籍を整理することは大変だと思った。
- ・町に帰ってくる住民の多くは高齢者であると聞き、これから町を維持・復興していくことの難しさを感じた。

(参加者の感想から、一部抜粋)

■ ボランティアツアー2日目

■ ふたばワールド2017 in とみおか

「ふたばワールド」とは、双葉郡8町村から福島県内外に避難した方々に交流・再会の機会を創出し、「ふるさとふたば」の復興を目指すイベントです。

今年は千葉大学に縁のある富岡第一小学校・中学校のグラウンドで開催されるということで、スタッフとして参加しました。



イベントのスポーツ体験ブースでは、サッカーやバドミントンのブースを運営補助をしました。また千葉大学としてもブースをお借りし、これまでの活動報告を行いました。更に学生が作成した防災かるたを使い、訪れた地元の子どもたちとも交流しました。

■ 小学校内見学

富岡第一小学校の校長先生のご厚意で、来年から再開予定の小学校内を見学させていただきました。各教室は片付けられていたものの、建物自体が傷んでいる様子でした。また体育館には震災前まで使われていた机や椅子、校内の備品等が集められていました。



学外でのボランティア活動

ちばシティサバイバルキャンプ

日時：平成29年9月24日
 場所：千葉大学 第一体育館・グラウンド
 参加人数：小学生約80人(保護者同伴)
 共催：千葉大学・千葉県キャンプ協会
 千葉大学ボランティア活動支援学生スタッフ
 後援：千葉県・千葉県教育委員会
 千葉市・千葉市教育委員会
 日本キャンプ協会

9月の末に、千葉市内の小中学生を主な対象とした、サバイバル活動の体験イベントを開催しました。

子ども達がキャンプ活動やサバイバル活動への興味を持つきっかけや、防災意識を高めるきっかけを作るのが主な目的です。

キャンプ活動を楽しみながら防災を考えてみませんか？

ちばシティ2017 サバイバルキャンプ

今年から新しく「救急法」と「防災かるた」が加わりました！

プログラム内容

防災トイレ ロープ 火おこし クラフト

【当日 日程】
 9:30 受付
 10:00 開会式
 10:30 プログラム開始
 ↓
 プログラム終了
 12:30 閉会式
 13:00 終了(予定)

日にち：平成29年9月24日(日)
 場所：千葉大学 グラウンド・第一体育館
 持ち物：飲み物、帽子、うわばき、タオル
 参加費：無料

※先着80名程度。
 ※定員に達し次第、受付を締め切らせていただきます。
 ※参加者全員に記念品を贈呈します。
 ※参加者は主催者負担で保険に加入します。
 ※雨天は別プログラムになる可能性があります。
 ※動きやすい服装でも結構です。
 ※対象は小学生以上です。未就学児は保護者同伴の上にご参加ください。

お申し込み・お問い合わせは
 氏名と連絡先、学校名、学年、
 同伴者の有無 を記載の上、
chiba.city.survival.camp@gmail.com
 こちらまで！

※お送りいただいた個人情報につきましては、
 本イベント以外には使用しません。

主催：千葉大学・千葉県キャンプ協会
 運営：千葉大学ボランティア活動支援学生スタッフ
 後援：千葉県・千葉県教育委員会
 千葉市・千葉市教育委員会
 日本キャンプ協会

地(知)の物産



クラフト (丸太切り)



ロープワーク



火おこし



防災トイレ



救急法



防災カルタ

イベントでは5つの体験プログラム(ロープ結び・刃物を使ったクラフト・火おこし・防災トイレ・救急法)のうち2つを子ども達に選んでもらい、学生スタッフやキャンプ協会の方々で活動しました。また付属プログラムとして、学生スタッフが作成した防災カルタも子どもたちに体験してもらいました。

縁 joy 東北2017

日時：平成29年12月2日
 場所：イオンモール幕張新都心 グラนด์スクエア
 参加：ボランティア活動支援学生スタッフ

千葉県で東日本大震災復興支援活動をしている団体が集まって行うイベントで毎年参加させていただいています。

今年はイオンモール幕張新都心に場所を移して行いました。



起き上がり小法師絵付け体験

福島県で伝統芸能として有名な起き上がり小法師の絵付け体験を行いました。広い年代の方に体験いただき、思い思いの絵を書きいただきました。



東北クイズラリー

会場を回ってもらうための一つの仕掛けとして東北に関するクイズラリーを行いました。今回は福島県のキビタンや岩手県のわんこきょうだいなど、東北のゆるキャラをあしらったクイズを作成し、子どもたちに好評でした。



山王公民館防災キャンプ

日時：平成29年8月19日
場所：千葉市山王公民館
主催：千葉県キャンプ協会
参加：ボランティア活動支援学生スタッフ

ちばシティサバイバルキャンプでお世話になっている千葉県キャンプ協会主催の防災キャンプに学生も参加しました。

災害時のシンプルな調理を体験や、新聞紙スリッパ作り、木のペンダント作りなど学生も学びながら子どもたちに教えていきました。

9月のちばシティサバイバルキャンプにつながる活動となりました。



マンスリーウィークエンド

日時：千葉市少年自然の家
参加：ボランティア活動支援学生スタッフ

千葉市少年自然の家でのボランティアを今年も継続的に行わせていただいています。中心となっているのは、毎月行われる家族キャンプ「マンスリーウィークエンド」のお手伝いです。

一緒に野外体験を行うとともに、レクリエーションを行うなど他のボランティアにもつながる活動をさせていただいています。

今年はちばシティサバイバルキャンプに千葉市少年自然の家のスタッフさんに参加いただきました。これからも連携をさせていただき、活動の幅を広げていきたいと考えています。



「ふれあいの環」とは

「ふれあいの環」とは
 学生と学生、学生と教職員が相互にふれあい、イベントなどを通じて総合的な人間力を
 ゆっくりと身につけていくための場所です。
 各団体の活動だけでなく、その枠を越えた総合的な活動を展開しています。



学生が学生を支援する活動を行う5団体により、これまで組織されてきました。
 平成30年度より新たに1団体加わり、**6団体**としてスタートします。

平成29年度の主な活動

新入生サポート会

日時：平成29年4月4, 6, 7日
場所：学生支援センター2F「ふれあいの環」
主催：学生コミュニティ支援団体ピア

「新入生サポート会」はふれあいの環の学生が、大学生活について疑問や不安を持つ新入生の相談にのるイベントです。3日間で多くの新入生が来場し、先輩学生に相談しました。

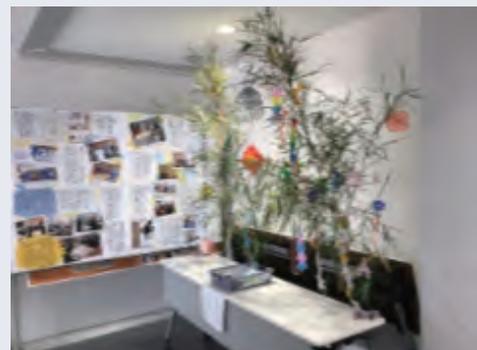


七夕 week

日時：平成29年7月3日～7日
場所：学生支援センター1F
主催：ふれあいの環5団体合同

総合学生支援センターを利用している学生・教職員の方々に、季節を感じてもらうとともに、自らの願いを短冊に書く機会を提供することを目的として、七夕 week を開催しました。

七夕 week では、笹と願いを書く短冊をセンター1Fに設置しました。この7月はテスト前ということもあり、勉学から恋愛に至るまで様々な願いが飾られていました。



キャンパスクリーン活動に参加

日時：平成29年7月14日、12月13日
 場所：千葉大学西千葉キャンパス
 主催：千葉大学

キャンパスクリーン活動とは、千葉大学教職員による構内清掃活動です。

日頃利用しているキャンパスをきれいにするため、ふれあいの環の学生も参加させていただきました。

清掃のお手伝いだけでなく、一緒に参加している教職員の方々とも交流もでき、非常に有意義な活動となりました。



第9回ふるさと田中みこしまつりに参加

日時：平成29年9月2日
 主催：ふるさと田中みこしまつり実行委員会

ふるさと田中みこし祭りにふれあいの環の学生が参加しました。

田中みこし祭りは柏市のお祭りで、毎年、千葉大学柏の葉キャンパスの目の前(柏の葉キャンパス駅前ロータリー)で行われています。

ふれあいの環は3年前から、柏市への貢献を主な目的とし、お神輿の担ぎ手として参加させていただいています。

お神輿を担ぐなかで地域の方とも交流でき、非常に充実した時間を過ごすことができました。



I

II

III

IV

V

VI

VII

第13回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウムに参加

日時：平成29年10月28, 29日
 主催：日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク
 場所：札幌学院大学(北海道江別市)

ノートテイク会が日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワークが主催するシンポジウムに参加し、ポスター発表を行いました。

このシンポジウムは全国の大学における聴覚障害学生支援の実践に関する情報を交換することで、今後の聴覚障害学生支援体制を発展させることを主な目的とするものです。



千葉大学ノートテイク会

2017年度前期	
利用学生	3年生3名、1年生1名
派遣コマ数/週	22コマ
テイカー学生	37名

練習会

- 週1回開催
- 1～3年が4班に分かれて2年生中心に運営
- 班ごとの特徴のある題材（外国語、話者切り替え、スライドや板書使用等）
- 上級生による新人テイカーの指導

手書き練習会
(複合会)

学生主体

一人ひとりが会を運営しているという意識を持って日々活動しています！

研修会

- 技術研修会
- テイク用ソフト (IPtalk や T-TAC Caption) の説明
- トラブルシューティング
- ノートテイク研修会
- 聴覚障害への理解を深める

全体会・総会

- 練習会の反省
- トラブル解決
- 利用者からの要望
- 情報共有、提案 (理系講義で頼出する記号の便利な変換方法等)

ブックツリー

- 図書館でノートテイクに関連する書籍を展示
- ノートテイク会の活動紹介

式典テイク

- 学内の留学生交流イベントでの字幕通訳
- 入学式、卒業式の字幕通訳

問い合わせ先
 千葉大学 ノートテイク会
 会長：深澤弘樹 副会長：上杉聖球、菊田集成、朝中穂乃

Mail: info@ntkai.ake.jp
 HP: <http://ntkai.ake.jp>
 Twitter: @chiba_ntkai

普段行っている聴覚障害者サポートを振り返る、良い機会となりました。

千葉大学ノートテイク会とは？

～ノートテイク会の活動～

学内の聴覚障害学生の受講する授業に出向き、“ノートテイカー（通称テイカー）”として、音声情報を聞き取ったままにPCで打ち込みます。打ち込まれた文字を聴覚障害学生がiPadで見ながら授業を受けます。学外や実習でPCが使えないときには、手書きテイクをすることもあります。





第52回 Universal Festival を開催

日時：平成29年12月14日
 場所：千葉大学けやき会館 大ホール
 主催：千葉大学国際教育センター
 企画・運営：CISG(千葉大学国際学生会)
 協賛：千葉ユネスコ協会
 協力：千葉大学ノートテイク会
 後援：千葉市、千葉市教育委員会



第52回 UF ではイタリア、韓国、中国、マダガスカル留学生が発表を行いました。



Universal Festival(以下UF)は、留学生との交流と相互理解を促進することを目的としたイベントで、年に2回開催しています。

留学生が自分の国について発表を行うステージ発表がメイン企画です。発表の後には交流会もあり、それぞれの国の伝統料理を留学生が振る舞います。



I

II

III

IV

V

VI

VII



「カタリベカフェ」開催

日時：月1回開催

場所：総合学生支援センター2F
「ふれあいの環」

主催：学生コミュニティ支援団体 ピア

「カタリベカフェ」は、月に1回ペースで開催しています。様々なテーマのもとで、飲み物を片手に参加者同士で語り合うイベントです。他の人の意見をききたい・・・いろいろな人と話してみたい・・・など参加の動機はいろいろ。

ふらっとカフェに立ち寄るような気分で参加できるイベントです。

テーマは学部、年齢、性別など異なる知識・価値観をもつ様々な人々と語り合うことで、様々な考えを共有することができるように、メンバーが毎回意見を出し合って決めます。

今年度のテーマは

- ・あなたの大切な価値観は？
 - ・仲良くなるためにしたいことは？
 - ・千葉大生は将来の夢をみるか？
- などがあります。

前期と後期に毎月1回程度開催しており、平成29年度は6回開催しました。



ピアは学部・学科、部活動・サークル以外の繋がりづくりを目指しています。新歓期を過ぎると、新しく増える友人は少ないと思います。そのため、ピアでは枠にとらわれないコミュニティの創造を目指しています。

知り合い以外とも話してみたい人、様々な意見を聞いてみたい人、誰かと熱く、深く語りたい人がカタリベカフェに参加しています。

年賀状プロジェクト

日時：平成30年1月

主催：ふれあいの環5団体合同

日頃からお世話になっている教職員の方々に、年賀状を製作しお渡ししました。

また平成29年7月にも、暑中見舞いを作成し、お渡ししています。



「3.11を想う」を開催

日時：平成30年3月16日

主催：ふれあいの環5団体合同

震災の風化防止を主な目的として、毎年3月に開催しています。活動内容は、黙祷や語り合いです。東日本大震災に思いを馳せ、参加者ひとりひとりが震災について、これからの自分達について考える機会を提供しています。



活動を振り返って

「ふれあいの環」 会長 融合理工学府博士後期課程 1年 小林 篤史

この1年間、富岡小学校支援や東北震災ツアーを始め、様々なボランティア活動を企画・運営させていただきました。

ボランティア活動を運営する中で、あることに気づきました。それは、任された作業や仕事が終わった学生のほとんどが「何かできることはありますか?」と聞きにくることです。あるいは終了していない他者の仕事を自主的に手伝う場面もよく見受けられ、学生が非常に積極的であることが感じられます。

このことについて「積極性のある学生だからボランティア活動に参加している」という見方もできますが、私は「ボランティア活動が学生を積極的にする」という側面も大きいのではないかと考えています。

なぜなら学生がボランティア活動に参加すると、「人の役に立つ為に活動している」という使命感を少なからず持つと考えられるからです。この使命感ゆえに、自分の手が空くと他の貢献できる何かを探して行動するのです。これは、例えばアルバイトなどとは違い、対価や見返りを求めないボランティア活動だからこそ生まれる積極性ではないでしょうか。

そしてこの使命感と積極性に基づく行動は、学生一人ひとりに新しい発見やこれまでにない経験をもたらします。これこそ学生ボランティア活動における学生の学びであり、活動の意義ではなからうかと思うのです。

最後になりますが、活動を支えて下さった千葉大学教職員の皆様、参加して下さった学生の皆様、また活動の機会を与えて下さったボランティア先の皆様に心より感謝申し上げます。

「ふれあいの環」 副会長 工学部 4年 秋山 光

大学生活では勉強だけでなく、課外活動等で様々な経験をしてみたい。4年前、入学当時の私は、そのようなことを考えていました。それから4年間、私のふれあいの環での活動を通して、大きく成長できたように思います。特にこの4年間、私が活動を「継続」して行うことができたことは、誇れることであると感じています。

「継続は力なり」ということわざがあるように、何かを続けるということは、簡単なようでとても難しいことです。継続して活動を行う際に原動力となるのは自分が楽しむことだと私は思います。どんな活動のときも自分が楽しくなるように創意工夫をしたり、仲間の存在というものも自身の活動を楽しむ大きな要因です。これからふれあいの環の活動の中心となっていく後輩には、自分が楽しくなるようにのびのびと活動をしていってほしいです。

また、私たちふれあいの環の活動自体を「継続」して行えてきたことは、私たちの大先輩と教職員の方々、千葉大学をよりよくしようと奮闘してくださった成果であります。私の4年間のふれあいの環での活動に関わっていただいたすべての人に感謝を申し上げます。

これからも、ふれあいの環の活動は、後世に引き継がれていき、より盛り上がっていくことと思います。ぜひ、その中で得た経験、仲間を大切に今後の自身への糧をしていってください。



「ふれあいの環」 代表 法政経学部 3年 新井 悠介

「支援」。この2文字の言葉を聞くと、人々はどのような支援を思い描くのでしょうか。復興支援、障害者支援、就労支援など、世の中には実に多種多様なかたちの支援があります。その中でも、私たちふれあいの環の学生は、学生が学生を支援する、という活動を行っています。しかし、学生が学生を支援する、と簡単に言っても、この活動は非常に奥の深いものです。私はふれあいの環での活動を通して、この活動の重要性を強く実感しました。

困っている学生がいるなら力になりたい。もっともっと笑顔あふれる大学にしたい。そんな気持ちが心の底にありました。政府が行うような大規模な支援は私たちにはできません。しかし、ちょっとしたことでいいのです。同じ学生だからこそできる、という強みを生かして活動を続けていけば、笑顔を与えることができる、ということに気づきました。私たちの活動がたくさんの笑顔を生む。そして、支援という形で他人のために行っていたことが、いつしか自分自身も笑顔にしてくれる。とても有意義な活動であると感じました。

私はこの活動において、感謝しなければならないことが大きく2つあります。

1つ目は、ふれあいの環に出会えたことです。2つ目は、教職員の方々です。大学生活はあっという間に終わってしまいます。そんな貴重な時間の中で、ふれあいの環の活動を通して様々な経験をすることができました。支援には正解もゴールもありません。そんな支援の在り方について、同じベクトルを向きながらも時にはぶつかり合って議論したこと。支援を通して笑顔を与え、与えられたこと。学生だけではなく教職員や地域の方々も含め、たくさんの人と出会ったこと。他にも数え切れないほどたくさんの経験をしました。これらの経験で得たことを、残りの学生生活、そして社会へ出たあとも胸に刻んでいたいと思います。

千葉大学ノートテイク会 教育学部 4年 永瀬 綾香

「耳の代わりになる」初めて聞いたときの衝撃は今でも覚えています。入学式、あんなにも緊張した中で大きなスクリーンに映し出された字幕だけは鮮明に覚えています。それがノートテイク会との初めての出会いでした。それから4年間、多くの経験をさせてもらいました。

今まで多くの人に支えられてきたし、今度は自分が誰かのために生きたいと思いノートテイク会に入りました。でも、言葉にするのは簡単で、実際に活動するにはそれに見合った力量が必要でした。そもそも大学に入るまでに数えるほどしかパソコンに触ったことがない私にとって「聞こえた音を文字にする」ノートテイクは困難の連続。正直、足手まといになるだけだし、やめたほうがいいのではと考えたこともあります。しかし、それでも4年間続けられたのは会のメンバーの存在でした。声をかければ個別練習に駆けつけてくれる同期。不安になって相談すれば親身になって聞いてくれる仲間。改善したほうがいい点を教えてくれる利用者の方々。誰かのために活動したいと思っていましたが、逆に多くの人に支えてもらい温かさを感じました。

学生が学生を支援するピアサポートは、だれでも体験できるものではありません。そういった中で4年間も活動させてもらって得たものは今後の人生にとってとても有益なものになると思います。4年間貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

ボランティア活動支援学生スタッフ 代表 法政経学部 3年 田代 智也

千葉大学に「ボランティア学生支援」というものがあるということを知ったことから、私が「ふれあいの環」で活動が始まりました。高校生の頃から子どもたちとのキャンプなどボランティア活動に関わっていましたが、誰かにボランティアをしてもらえるように活動をするとは、思ってもいませんでした。

そこから約3年、学生スタッフの代表を一年間務めさせて頂いた今、一番感じていることは、「ボランティアの可能性」です。学生スタッフとして継続的にボランティアに参加させていただくことで、新たにたくさんの方々と出会い、関わることができました。富岡第一・第二小学校の運動会でよさこいを踊ったり、ちばシティサバイバルキャンプでロープワークを学んだり、普通の学生生活ではできないこともやらせていただきました。ボランティアだからこそできたことも数多くあり、多くの人と関わったことは私にとって大学生活の財産となっています。この経験は、学生スタッフのみんなで動いているからこそ実現することであり、職員のみなさんのご協力がなければ、実現しないものばかりでした。また、普段からご協力いただいている地域の方々にも感謝しながら、私たちは活動しなければならないと思っています。学生は入れ替わっていきますが、団体の「学生が学生を支援する」という概念は変わりません。これからも私たち、そしてボランティアに関わる学生を応援していただければ、嬉しいなと思います。

あしがき

学生から学んだこと ～より高きを目指す若者達へ～

千葉大学未来医療系事務部長
(元 学生支援課長)
菅野 仁

あの日あなたは何をしていましたか。7年前どこで、何を感じ、何をしましたか。あなたは覚えていますか、平成23年3月11日14時46分、日本観測史上最大の地震「東日本大震災」があったことを。

この年の4月1日に私は学生支援課長に着任し、1万人を超える学生の安否確認、被災学生等の支援対策そして被災地復興支援方策を指揮する立場となった。

安否確認は各部局からメール、電話等々により随時確認状況の報告を整理、被災学生支援策では、授業料の減免、奨学金の給付制度、近隣住民の方のご厚意による無償アパートの提供などの対応に追われる日々の中、千葉大学として被災地の復興支援を如何にすべきか、何をなすべきかを模索していた。唯々、毎日テレビ、新聞等での被災状況の報道、被災された方々の辛く苦しい姿や極寒の避難所でのこの先の生活に対する喪失感、悲痛な思いを伝えられ、その状況を目に写し聴くことしか出来ない自分がいた。

そんなとき、ボランティア支援センター代表の古谷佳大君の他、堀井美沙さん、塚田祐子さん、安里加菜さん、大関麻里さんなどから、「千葉大は何故何もしないんですか。それでいいんですか。」と投げかけられました。当時学生達有志は、NPO等団体の活動に参加し、毎週のように被災地に出かけ支援を行っていた。瓦礫の片付けなど女性にとっては過酷な作業でも、被災され避難生活を送られている方々のことを思えば、この程度の事は耐えられるし、辛くもないとの事でした。重い荷物を背負い、食料・水、シュラフなどを自分で用意し、交通機関も整備されていない中、ボランティアバスなど利用し被災地に向かい、今自分が出来ることを実行した。

学生は、「食料も水も寝るところも全て自分たちで用意します。大学には被災地までのバスなど足だけでいいから用意してください。お願いします。」と、大学への明確な支援策の一つを訴えてきた。

何かをしなければいけないと思いながらも、「瓦礫の片付けはキツイし、食事も寝床もないところに行くなんて無理だな」と、どこか弱腰になっていた自分がいたことを気付かせてくれた。

学生達の熱い思いを感じ、同年8月第1回千葉大学ボランティア活動が「気仙沼」で行われた。その後、「南三陸」、「南相馬」などにおいて毎年活動が実施された。

被災地に入る前と活動終了後の学生達の顔が明らかに変わっていたことを忘れることは出

来ない。あれだけきつく、辛く、厳しい環境での復興支援活動後の達成感、充実感に満ちあふれた輝く顔を私は忘れない。

ありがとう。学生諸君。

第1回から学生達（遠藤加奈さん、子安奈穂さん、小林篤史君、新井祐里さん、林夏菜子さん、秋山光君、田代智也君他にも多くの学生）が絆を繋ぎ、震災を風化させない大きな力となっている。

継続は力なり。

学生達から気付かせてくれた一言があったからこそ、学生支援課長として学生目線の重要性や背中を押され一歩踏み出す力を培ったと感じる。

また、千葉大学は福島県富岡町の小学校への支援を継続的に行っている。

富岡町は東日本大震災による福島第一原子力発電所事故に伴う避難指示区域となり、住まわれていた方々は県内のほか全国に仮住まいを強いられることとなった。

富岡小学校は震災後（平成23年9月）福島県三春町に仮設校舎（富岡小学校三春校）により再開したものの、1500名程いた児童は仮設移転後67名に激減し、現在は11名の児童のみである。

当時（平成23年9月）、三春町に仮設移転後、富岡第一小学校八島校長（千葉大学教育学部0B）から、大学へ遊具などの支援援助の依頼があったのを期に、運動会など諸活動を学生中心に支援を行った。支援というよりも学生達には「今まで学んだことの実践の場」として、千葉大生としての自覚と社会を学ぶ機会を与える位置付けと捉えて活動を続けてきた。

年々続けることで、児童からは「今年もあのお兄さん来るの。あのお姉さんと一緒に走って頑張る。」など、千葉大生が来ることを楽しみにしてくることが何より嬉しく、そして、児童と学生達との絆が生まれたことが「支援」ではなく、大学としての教育効果の表れと感じるものである。

全校児童と日帰りでしたが東京ディズニーランドで過ごしたことは、今でも鮮明に記憶しています。学生が自ら企画し数ヶ月に及び小学校・保護者等との調整を行い児童28名に対して学生30名のサポート、更に富岡小学校の先生方のご協力により無事に終了した。園内での子ども達の笑顔、解散後の学生スタッフの感激の涙も忘れることは出来ません。

移転後からご協力頂いた、根本校長、新井川校長、伏見校長、岩崎校長、渡邊校長、そしてなにより先頭となって学生の指導も頂いた武内先生、鈴木先生に感謝するばかりです。

富岡小学校との繋がりを継続してくれた、藤本弘之君、木田祐資君、青木薫平君、佐藤由樹さん、金子真大君、森和紀君、佐藤脩平君、川島優花さん、田中智之君、四家鈴菜さん、飯迫奨大君の他にもいっぱい感謝しなければいけない学生達があります。ありがとう。

これからも千葉大学は、東日本大震災を忘れず支援を続けていくことでしょう。一日も早い復興を切に願います。

ふれあいの環通信 後期版

大学祭

「東北・熊本物産展」と「写真・パネル展示」を出展しました。物産展では東北・熊本の銘菓販売展示はポロンティアツアアの活動写真や、ふれあいの環の活動をまとめたパネルを展示しました。



ユニバーサルフェスティバル

留学生との交流を目的としたは第50回目となり、以前UFに出た留学生へのインタビューの様子を上映し、多くの方が参加してくださいました。



カタリベカフェ

11月〜1月まで開催します。テーマのもと、参加者同士が会話するイベントです。学部やサークルを超えた広いつながりを作ることができます。

自分の大切な価値観は？

11月のテーマ

先輩・後輩つてなんだろう

12月のテーマ

仲良くなるためにしたいこと



年賀状

ふれあいの環の学生から日頃お世話になっている職員さん、学長さんに年賀状をお送りしました。



ピアノリレー

ピアノをバトンに見立て、順番に弾くイベントです。今回は、8名の学生と教職員の方が参加し、音楽を通して交流を図ることで、できる機会となりました。



～3/11を想う～

東日本大震災の風化防止を目的に開催しました。震災に関する記事を持ち寄り、震災当時から今までを振り返りました。



縁JOY東北

4度目の縁JOY・東北に参加し活動報告の展示、新聞紙入りリッパ製作体験や、東北名物の芋煮の販売を行いました。多くの子どもから年配までの方が「おいしい！」と食べてくださいました。

福島県富岡小 スキー体験&豆まき

冬の恒例となった福島県にある富岡小の子どもたちとのスキー&豆まき体験では、子供達の練習を補助しました。豆まき会では、鬼役として会を盛り上げました。



キャリアデザイン・ラボ



就職活動を終えた先輩方による講座や座談会が行われ、キャリアについて考える貴重な機会となりました。

I
II
III
IV
V
VI
VII

ふれあいの環通信 前期版

2017/11/01 発行

新入生サポート会

新入生サポート会とは？

新入生が大学生活から授業の組み方まで学部の先輩に直接相談できるんです！

今年は7学部
88名の方が相談に来てくれました！



こちらの2階奥「ふれあいの環」で開催！



学部の先輩だから、深い話まで聞ける！
サークルに入る前だからこそ新サポでスタートダッシュだ！！

富岡運動会

毎年恒例の福島県富岡幼・小・中合同運動会でお手伝い。子どもたちと力を合わせ、子どもたちの競技のお手伝いや一緒によさこいを踊るなどして運動会を盛り上げました。



↑競技の様子
学生と子供たちが一緒に競技を行いました！



当日までに何回も練習した「よさこい」子どもたちと一緒に踊り切りました！

七夕

7月3日～7日、七夕企画を行いました！毎年多くの学生・教職員方が願い事を書いてくれています。笹の設置方法や飾り等を改善し、その結果昨年度よりも多くの方に参加していただきました！



キャンパスクリーン

定期的に行われるキャンパスクリーン活動に参加しています。普段お世話になっている職員さんと草刈りなどを行いました。



ふるさと田中みこし祭り

柏の葉キャンパス駅前で行われ、地域住民の方とお神輿を担いでお祭りを盛り上げました。



ボランティアツアー

△1日目▽

富岡町図書館にて本の清掃のお手伝い

今年は6年ぶりに避難指示解除された、福島県富岡町での活動でした。富岡町の「今」と「未来」を見つめる2日間となりました。



△2日目▽

「ふたばワールド」でのお手伝い



↑富岡町のブースの一角をお借りして、自作の防災カルタを子どもたち向けに行いました。

カタリベカフェ

カタリベカフェとは？

月替わりのテーマに沿って、お茶やお菓子を囲んで気軽に話し合うイベントです。

前回7月13日は

僕らの夏休み

というテーマで行いました。



↑前回の様子
初めての参加者も多数おり、新たな価値観の発見もありました。

自分の大切な価値観とは？

先輩・後輩って何だろう

仲良くなるためにしたいこと

学部、学年、サークルを超えたおしゃべりができるのがカタリベカフェのいいところ



～今後の予定～
11月
12月
1月

